

下野市 校務 DX 計画

令和5年3月、文部科学省は「GIGA スクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言をまとめ、各自治体に向けて、これからの校務 DX（デジタル・トランスフォーメーション）の方向性を示した。この提言では、今後数年かけて、校務用ネットワークと学習用ネットワークの統合や、新しい校務支援システムの整備を進めることが求められている。また、クラウドを活用した GIGA スクール環境を積極的に使うことで、教職員や学校関係者、教育委員会の職員の負担軽減・コミュニケーションの迅速化や活性化が可能であるとしている。

現在、本市では教職員が校務で使用するパソコン等が接続された「校務用ネットワーク」と、児童生徒が使う「学習用ネットワーク」があり、両者は通信できないように分けられている。このしくみによりセキュリティは保たれていますが、次のような課題がある。

- ・ 教職員は校務用と学習用の2台の端末を使用する必要があり、校務用端末と学習用端末間で容易にデータ移動・共有ができない。
- ・ 校務端末の使用環境が限られ、柔軟な働き方が実現しにくい。

このような課題を踏まえ、本市において次に掲げる事項を検討していく。

（1）次世代の校務支援システム導入検討

教職員が柔軟かつ安全に働ける環境を実現するために、まずは学校現場の実情や課題、ニーズを把握し、「ゼロトラスト」の考え方にに基づき、適切なアクセス制御を行うなど、十分なセキュリティ対策を講じる必要がある。これらを踏まえ、市教育委員会は、学校現場および関連業者と連携しながら、校務系と学習系ネットワークの統合、さらにパブリッククラウド上での運用を前提とした「次世代の校務支援システム」の整備に向けた検討を行う。

（2）クラウドツールの整備・活用

校務支援アプリ等を活用し、学校や教育委員会からのお便りなどの印刷・配布の廃止を目指す。それにより、教職員の日常業務の負担軽減を図ると共に、ペーパーレス化を推進する。

(3) FAX でのやり取り・押印の見直し

FAX や押印が必要な場面等の確認を行い、ルールの見直しや関係部署内で協議を進めていく。